

特集 洗車あれこれ

～お客様の大切な車をきれいに保つ～



TOKO

洗車で避けた方がいいこと

×直射日光の下で洗車する

洗剤や水がすぐ乾いて「ムラ」や「水ジミ（ウォータースポット）」の原因に

◎早朝や夕方、曇りの日がおすすめ

屋根のある場所や日陰があればベスト！

×ボディが乾いたまま拭く・擦る

ホコリや砂がついた状態でこすると「洗車キズ」がつきます

◎必ず水で流してからスポンジなどを使う

×食器用洗剤や強い洗剤を使う

脱脂力が強すぎてワックスやコーティングが取れてしまう

◎中性のカーシャンプーを使う

×1枚のタオルで全部拭く

ホイールを拭いたタオルでボディを拭くと、鉄粉などでキズがつく

◎部位ごとにタオルを分ける

×スポンジやクロスを洗わず使い回す

前回の汚れが残っていると、逆にキズをつける原因に
使用後は◎きれいに洗って保管する

×タイヤやホイールを最後に洗う

一番汚れている場所なので、最後にすると他の部分に汚れが飛び

◎ホイール→ボディの順が基本！

×ガソリンスタンドの高圧洗車機ばかり使う（頻繁に）

最近はソフトなものも多いが、×ブラシの管理状況によってはキズの原因に
定期的に手洗いでしっかりケアすると◎

×エンジン停止直後

水分やカーシャンプーの蒸発が早くなり、シミやムラの原因になる

！花粉&黄砂に注意

水なしの洗車シートの注意点！！

水洗いをしないで使用するとボディに細かい線傷がついてしまいます。水洗いをしたあとに使用するのが鉄則です。

「普段の洗車にプラスして光沢・撥水をもたせることができる簡易コーティング」という観点でご使用をお願いします。



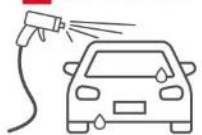
ワンポイント豆知識

「コイン洗車場」など乾燥機に頼りすぎると水滴が残りがちに。
やっぱり最後は自分の手で拭き上げるのがキレイに仕上がるコツ！

※47号にも洗車特集あり

手洗い洗車のやり方5ステップ

01 水で汚れを流す



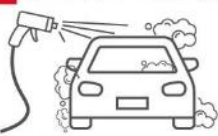
02 ボディを洗う



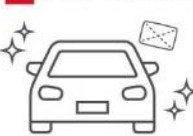
03 タイヤホイールを洗う



04 カーシャンプーを水で流す



05 クロスで拭き取る



生垣付近は注意が必要です



木の枝や葉っぱによる傷がつくことが意外と多い！！

飛び石やいたずら、縁石や壁にぶつけた洗車時など車に傷ができる原因は様々ですがその中でも盲点となりやすいケースが木の枝や葉っぱとの接触です。

～ 運転の感覚 ～

いまなお「左側の自損事故」が増加傾向にあります。電柱やガードレールへの接触、狭い路地での縁石擦りなど、いずれも車両の左側を損傷するケースが目立っています。事故の背景には、役員車両の大型化です。車幅が広くなることで、左側の距離感がつかみにくなっています。また管理車両が替わった際、車幅感覚が以前のままといったことも考えられます。対策として、「左側意識の再認識」です。運転前には必ず、シートや頭を定位置で固定しドアミラー等をしっかり調整しましょう。運転中では、狭い道や幅寄せの際「大丈夫かな？」と思ったら接触します。「大丈夫かなと思ったら止まる！」そんな気持ちが大切です。役員ドライバーは、単なる運転手ではなく、お客様の信頼や安全を担う重要な存在です。そして、お客様の大切なお車をお預かりしているという敬意を持ってハンドルを握り、冷静な判断と操作で、安全運転を徹底していきましょう。

研修課 升田 康一